春日井・ホ タルの名所「大



9昨夏

大谷川の自然の中を

飛び交つホタルの樹木がほ とんどなかった頃の大谷川の

つくりグループ提供 エ手ーいずれもみどりのまち

とする大谷川は、毎年六月になるとホタルが飛び交 の時間を要したという、この場所の自然再生の歩みを たどった。 ふれ、ホタルもほとんど見られなかった。十五年以上 が集まる癒やしの場となっているが、以前はごみがあ い、幻想的な雰囲気に包まれる。今でこそ周辺住民ら 春日井市東部の築水池(廻間町)のすぐ西側を源流 磯嶋康平



午後七時すぎ、 内川へと注ぐ。六月半ばの 船神社の脇を流れ、坂下町 辺りで内津川に合流し、 ホタルが姿

> の原風景」といった趣だ。 田畑や森が取り巻き「日本 が出迎えてくれた。周囲を 植わり、きれいな水の流れ 社近くを訪れた。川幅は数 を見せるより少し早く、 が、土手には多くの木々が 活動を始めた当初は木

くの森」から小野道風生誕

ホタルも 築水池周辺に広がる「みろ が、そう教えてくれた。 境に再生したボランティア グループは一〇〇二年、

ホタルが飛ぶ川の環境を長年かけて再生した 高橋さん看ら=春日井市廻間町の大谷川で

ば一と願った。

てもらうきっかけになれ

くの人にホタルを見てもら には長い年月がかかる。多

身近な自然を大切にし

高橋さんは「自然の再生

いなかったんですよ」。長 年かけてホタルがすめる環 みどりのまちづくりグル プ」の高橋勇夫顧問(八三) と発足。大谷川源流での活 なぎ「緑の回廊」を作ろう けて、分断された自然をつ の地と伝わる松河戸町にか

ないばかりか、南側の土手 年から始まった。 動はその一環として、 は「水質の向上や、 掃はもちろん、土手の植樹 捨てられていたという。清 ともあってか多くのごみが の上を市道が通っているこ の源流付近は樹木が一本も 力は多かった。 とから不可欠だったが、 一ケの確保につながる」こ 産卵場所となる木や草、 高橋さんによると、 ホタル

年にようやく許可を得た。 どの力も借りて調査や計画 りの事業にも面積不足で採 を続け、熱意が実って〇七 が進める自然豊かな川づく 同橋さんたちは県側と交渉 を理由に植樹を断られ、 中部大の応用生物学部な 務所からは「公共の場」 が難しかった。それでも 川を管理する県尾張建設 いか、ホタルの数はまだ少 を癒やした。ことしは例年 見られそうだという。 始め、集まった人たちの心 なく、六月中旬ごろに多く より梅雨入りが遅かったせ

餌となるカワニナの放流は を植えた。ホタルの幼虫の やヤマザクラなど千本余り るだけ人の手は加えず、自 あえて行わないなど、でき たという。 つくりを進め、 王三百平方がにクチナシ 川周辺の約

のホタルがちらほらと飛び 気付けば午後八時前。数匹 年感動している」と書う。 のボタルが舞う。取材した 来るようになった。こんな 子どもたちにも見せたいと 年前に友だちから聞いて、 市内の女性(置)は「五、 日、一人の子どもと訪れた なると、数え切れないほど 近で見られるんだと、 話を聞いているうちに、 一帯では毎年六月ごろに